

2020年2月10日 第311号

憲法共同センターNEWS

戦争する国づくりストップ！憲法を守り・いかす共同センター
〒113-8462 文京区湯島 2-4-4 全労連会館 03-5842-5611 (FAX 5842-5620)
<http://www.kyodo-center.jp> mail: move@zenroren.gr.jp

改憲発議を必ず止めるぞ！「新署名」本格スタート！ 署名の力で改憲を断念、安倍政権退陣に追い込もう！

「安倍9条改憲NO！改憲発議に反対する全国緊急署名」の取り組みが本格的にスタートしました。全国各地で学習会や宣伝行動が旺盛に取り組まれています。「改憲発議をさせない」という正念場のたたかいに、職場・地域から総決起することが求められています。

憲法共同センター「9の日」宣伝(2月10日)

憲法が生きる社会を実現しよう

憲法共同センターは2月10日昼、新宿駅西口で「9の日」宣伝に取り組み9団体21人が参加しました。山梨県北杜市で「戦争法廃止は政権を取らないと実現しない。政権を取るためには選挙に勝たねばならぬ」と投票率をアップさせるため宣伝カーでの訴えや講演活動などを行っている全国市民メディアの金野奉晴(ともはる)さんも行動に参加。板橋在住の98歳になる女性は通りすがりに「いつも署名用紙を持って歩いている。電車で隣に座った人にも訴えている」と改憲阻止のためがんばっていることを話して行かれました。新署名には45人からご協力いただき、カンパが300円寄せられました。

全労連の小田川義和議長は「毎日新聞が2月9日の社説で掲げたように、だれが聞いてもおかしい答弁を繰り返す安倍首相が、憲法遵守義務を果たしているとは言えない。そんな安倍首相が、改憲論議を国会議員に促すなど本末転倒。安倍暴走政治止めるためにも署名にご協力を」と呼びかけました。

新婦人の油原通江中央常任委員は「社会保障に必要と消費税が10%に引き上げられたのに、良くなるどころか切り下げられている。安倍首相は65歳を超えて働きたい人がいると言うが、くらしが不安で働かざるを得ないからだ。人間らしく生き、くらしたいという思いこそ、憲法がめざす世界だ」と訴えました。

憲法会議の高橋信一事務局長は「安倍首相は憲法9条に自衛隊を明記し、専守防衛を投げ捨て、自衛隊がアメリカと一緒に戦争をして、米軍のために血を流させようとしている。改憲発議反対の世論を広げ、国会でがんばる野党共闘を支援し、改憲を必ず阻止しよう」と呼びかけました。

東京のうたごえ協議会の大熊啓(あきら)さんが、『日本国憲法前文』と『約束のうた』を熱唱。農民連の町田常高さんは、安倍政権がすすめる大規模化、企業化する農政を批判し、「安倍政権のやることは歴史に逆行することばかり。9条改憲の企みもそうだ」と指摘。全労連の長尾ゆり副議長は「改憲発議をストップさせる署名は狂った政治を止めさせるための署名。みなさんの1筆1筆に思いを託していただき、政治を変え、憲法を守ろう。この国の主権者は私たち国民。憲法が生きる社会を実現しよう」と訴えました。



憲法共同センター 全国学習交流集会を開催(2月8日)

オールジャパンで安倍9条改憲発議を阻止しよう！

憲法共同センターは2月8日、損保会館会議室で「市民と野党の共闘で安倍政権打倒、安倍9条改憲発議の阻止めざす全国学習交流集会」を開き、38団体・個人76人が参加しました。日本共産党の山添拓参議院議員が国会情勢報告をしました。

自由法曹団の吉田健一団長が主催者あいさつ。「2月6日の全国市民アクションの北とぴあでの集会は大成功だった。改憲発議阻止の新署名を大きく広げ、改憲阻止、安倍政権を退陣に追い込もう。来たる総選挙では、市民と野党の共同を大きく広げ、勝利しよう」と呼びかけました。

「オール埼玉総行動の取り組み」について、総行動実行委員長の小出重義弁護士が講演。2014年6月に「集団的自衛権行使容認に反対する7・21オールさいたま市民集会開催実行委員会」を結成し、



10月に全県組織としての「集団的自衛権を行使容認した閣議決定撤回を求めるオール埼玉実行委員会」を結成、2015年12月に「安保関連法阻止！集団的自衛権を容認した『閣議決定』撤回を求めるオール埼玉総行動実行委員会」に名称変更し、現在まで1万人を超える9回もの集会・デモを行ってきたことなど、総行動の歩みについて話しました。安保法制に反対するという1点共闘を貫き、弁護士会が接着剤となって役員、事務局が粘り強く奮闘してきたこと、15の小選挙区で地域連絡会が結成されたことなどについて話し「埼玉のような取り組みを全国に広げていきたい。普通の市民に『安倍改憲はおかしい』とわかってもらえる運動をしていきたい。草の根民主主義が重要で議員任せではいけない。戦争をしたがる政権は、自覚ある市民が一番怖い。オール埼玉からオールジャパンへと運動を広げよう」と呼びかけました。

新署名推進のための取り組みの提起の後、参加者から7人が発言。「学ぶこと、継続して行うこと、対話が大事。地域に署名を配り、訪問活動を行っている」(品川憲法共同センター)、「新署名の目標は80万人。各組織で4月中に目標の半数を集めることにしている」(埼玉憲法共同センター)、「署名の担い手を増やすため、学習を行っている。宣伝は目立つことが重要。横断幕、プラカード、シール投票など工夫している。一刻も早く動くことが大事」(新婦人)、「平和ゼミナールを8年続けるなど青年の平和活動を重視している」(広島民医連)、「普通にくらしている人の目線で語りかけることが大事。おかしいと思っている動ける人を増やすことが重要」(愛知憲法共同センター)、「改憲発議をさせなかった市民と野党の共同の力、3000万人署名の力に確信を。独自チラシの署名用紙70万枚を印刷し出足早く取り組んでいる」(全労連)、「『憲法を生かし、平和・人権・民主主義、生活の向上が実現する社会を求めます』との署名項目は、消費税をなくすことにつながる。改憲阻止のために引き続きがんばる」(全商連)などの発言がされました。

全労連の小田川義和議長がまとめと閉会あいさつ。「私たちは今までともに憲法審査会を開かせなかった。大きな力の押し合いであり、緩めた方が負ける。今がふんばり時。緊急署名を今やる。共同の力で広げよう」と締めくくりました。

全国市民アクション 「新署名」スタート集会に900人(2月6日)

「新署名」を軸に改憲発議を阻止しよう！

全国市民アクションは2月6日夜、「許すな政治の私物化！STOP改憲発議！新署名スタート！安倍政権を退陣させる！2・6市民集会」を北とぴあ・さくらホールで開き、900人が参加しました。桜を見る会問題をはじめ、数々の政治の私物化、不正疑惑、民主主義を壊し、9条改憲を企む安倍政権をいっせいに退陣に追い込み、改憲発議反対全国緊急署名に奮闘する意思統一の場となりました。日本共産党の小池晃参議院議員、立憲民主党の杉尾秀哉参議院議員、社会民主党の福島みず

ほ参議院議員があいさつしました。



改憲問題対策法律家6団体連絡会事務局長の大江京子弁護士が主催者あいさつ。「今年は改憲の息の根を止める最大の山場。新署名を軸に改憲を阻止し、権力を私物化する安倍政権を倒し、政治を変えよう」と呼びかけました。

看護師の宮子あずきさんは、「いのちや平和を守るという原理原則が大事で、それは憲法だ。憲法を破壊する、閣議決定で無効化する、文書を改ざんする安倍政権。憲法をきちんと取り戻すことは、生き抜いていくための手がかりだ。がんばっていきましょう」と訴えました。

行動提起を総がかり行動実行委員会の高田健共同代表が行い、その横に、出来上がったばかりの新署名宣伝用の横断幕、のぼりが並びました。高田さんは「地域では間違いなく署名に協力してくれる人が増えている。署名を広く集め、改憲発議を絶対に阻止しよう」と呼びかけました。

●大阪

市民と野党の共闘で安倍9条改憲発議阻止！

緊急署名スタート集会 渡辺講演に220人

大阪憲法会議・共同センターは2月2日、西淀川区民ホールで全国緊急署名スタート集会を開催し、220人が参加しました。丹羽徹幹事長の開会あいさつ、清水忠史日本共産党衆議院議員の国会報告のあと、渡辺治さんが新たな情勢下、「市民と野党の共闘で改憲発議を阻止しよう！さらに広く深く草の根からの闘いを」と題して記念講演しました。

渡辺さんは市民と野党の共闘が安倍改憲を阻んできたことについて、共闘の結成と発展をふり返り、安保以来55年ぶりの共闘として成立した戦争法反対の共同とその後の市民連合の結成を語りました。この共闘の壁に対する安倍政権の巻き返しと共闘の危機を経て、3000万署名の展開と野党共闘の国会内外での頑張りでの参院選での3分の2割れ、改憲発議を壊したことを指摘。市民アクションや憲法共同センター、9条の会の奮闘が野党結束を強化させ13項目の「共通政策」まで深化、前進させたことに注目しました。

しかし、安倍を退陣に追い込む、安倍政権に代わる政権構想にまでは至っておらず、決して改憲をあきらめていないと強調し、安倍改憲新局面との闘いについて課題を述べました。安倍が憲法審査会での審議入りをめざして野党分断路線を強めてくること、国民投票をみすえ日本会議などによる「草の根からの」闘いを促進していること、中東派遣で実質改憲を先行・加速化させ、明文改憲に利用するねらいをあげ、9条加憲（自衛隊明記）の危険性を市民の中に訴えること、実質改憲策動に反対し抗議する行動の重要性を訴えました。新局面を迎えた2020年、この1年が安倍改憲粉碎か、強行発議を許すかの正真正銘の正念場になると述べ、「全国緊急署名を軸に今年こそ『正念場』を終わらせよう」と力強くよびかけました。



●北海道

オスプレイ撤収… 何しに来た？(怒！)

9の日アクションで「実績」づくり？に抗議

北海道憲法共同センターは2月7日、雪祭りで海外・道外の人もたくさん行き交う札幌パルコ前で「9の日」アクション。「9条改憲」発議反対の全国緊急署名とヒバクシャ国際署名に取り組

みました。



マイクを握った憲法センター共同代表の三上友衛道労連議長、畠山和也前衆議らが、今日が事実上最終日とされる日米共同軍事演習・ノーザンヴァイパーについて、「米沖縄海兵隊と陸上自衛隊あわせて4100人もが参加。まさに北海道の軍事基地化、『戦争する国づくり』のくわだてというほかない」と訴えると、驚きの声とともに次々署名がよせられました。

冷地での飛行実績が少なく危険が言われていたオスプレイは2月4日に飛来したものの5日、6日とほんの数回千歳基地周辺を飛行しただけで、「今日撤収」と北海道新聞に報じられました。「北海道に行った。雪の中を飛んだ」という「実績」、「ルートも訓練内容も何も知らせず」飛ばせた「実績」だけがねらいかのような飛来で、これも許せません。

海外からの旅行者も注目！次つぎサイン

ヒバクシャ国際署名には、オーストラリアやロシア（サハリン）から雪祭りに訪れた観光客からも次々サインが…。「雪まつりどう？」と聞くと「グレート!」と。街頭での国際交流もできました。